

世田谷区

平成30年度

子どもの生活実態調査報告書
【子ども・保護者アンケート調査】

平成31年3月

発行：世田谷区

分析：首都大学東京 子ども・若者貧困研究センター

本報告書は、世田谷区の委託を受け、首都大学東京子ども・若者貧困研究センターが分析・執筆したものである。

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的・対象・方法等	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象者	1
(3) 抽出方法	1
(4) 主な調査項目	1
(5) 調査方法	2
(6) 調査時期	2
2. 有効回答数（率）と回答者属性	3
3. 結果の概要	5
第2章 世帯構成と親の就労状況	16
1. 世帯構成	16
(1) 世帯タイプ	16
(2) 世帯内の子ども数	16
(3) 外国にルーツを持つ子ども	17
2. 親の就労状況	19
(1) 母親の就労状況	19
(2) 母親の就労時間	20
(3) 母親の日中以外の勤務	22
(4) 父親の就労状況	24
(5) 父親の就労時間	26
(6) 父親の日中以外の勤務	27
(7) 共働きの状況	30
3. まとめ	32
(1) 世田谷区における子育て世帯の世帯構成	32
(2) 外国にルーツを持つ子ども	32
(3) 親の就労状況	32
第3章 生活困難の状況	33
1. 生活困難度の定義	33
2. 世田谷区的生活困難度の分布	35
(1) 世田谷区的生活困難層	35
(2) 世帯タイプ別	36
(3) 子どもの人数別	38
(4) 親の就労状況別	39
(5) 学校種別	42

(6) 地域別	43
(7) 外国にルーツを持つ子ども	44
3. 家計の状況	45
(1) 食料が買えなかった経験	45
(2) 衣類を買えなかった経験	47
(3) 公共料金等が払えなかった経験	48
(4) 暮らしの状況	51
(5) 家計の状況	53
4. 住居の状況	56
(1) 住宅の種類	56
(2) 居室数	58
(3) 住宅費	60
5. 近所づきあい	64
6. まとめ	67
(1) 世田谷区における子育て世帯の生活困難度	67
(2) 食料・衣服が買えなかった経験・公共料金等が払えなかった経験	67
(3) 住居の状況・近所づきあい	67
第4章 子どもの生活	69
1. 子どもの食	69
(1) 朝食をとる頻度	69
(2) 一緒に朝食・夕食をとる人	70
(3) 食品群別の摂取頻度	74
(4) 子ども食堂の利用状況	79
2. 子どもの所有物	81
3. 子どもの日常的な活動	85
(1) 情報機器の利用	85
(2) 屋内での活動	88
(3) 屋外での活動	91
(4) 家事・家族の世話	93
4. 子どものための支出	96
5. まとめ	100
(1) 子どもの食	100
(2) 子どもの所有物	100
(3) 子どもの日常的な活動	100
(4) 子どものための支出	101
第5章 子どもの学び	102
1. 子どもの学力	102

(1)主観的成績	102
(2)授業の理解度	103
(3)授業がわからなくなった時期	105
2.子どもの学習状況	106
(1)勉強を教えてもらう人	106
(2)授業以外の勉強時間	108
(3)自宅の学習環境	110
(4)塾や家庭教師の有無	113
(5)学校の補習教室	116
3.学習支援事業	120
(1)無料学習支援	120
(2)家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所	123
(3)大学生による学習支援	125
4.不登校・いじめの経験	126
(1)不登校傾向	126
(2)不登校経験	128
(3)いじめられた経験	130
5.まとめ	131
(1)学力と学習資源	131
(2)学習支援事業の利用意向	131
(3)不登校・いじめの経験	132
第6章 子どもの人間関係と居場所	134
1.子どもの人間関係	134
(1)友人関係	134
(2)他の人との会話の頻度	136
(3)人間関係についての評価	141
2.子どもの平日・休日の過ごし方	145
(1)平日の放課後を一緒に過ごす人・過ごす場所	145
(2)新BOP・部活動	152
(3)平日の夜間を一緒に過ごす人・過ごす場所	155
(4)ほっとできる居場所	162
(5)休日の過ごし方	164
3.居場所事業等の利用意向	168
4.まとめ	171
(1)子どもの人間関係	171
(2)子どもの平日・休日の過ごし方、居場所事業の利用意向	171
第7章 子どもの自己肯定感	173

1. 子どもの夢	173
(1) 将来の夢	173
(2) 夢がない理由	174
2. 自己肯定感	175
3. 子どもの抑うつ傾向	178
4. まとめ	180
(1) 子どもの夢	180
(2) 自己肯定感	180
(3) 子どもの抑うつ傾向	180
第8章 子どもの健康	182
1. 健康状態についての主観的評価	182
(1) 子どもの主観的健康状態	182
(2) 保護者から見た子どもの健康状態	183
2. むし歯	185
(1) むし歯の有無	185
(2) むし歯の本数	185
3. 医療機関での受診状況	187
(1) 受診抑制経験	187
(2) 受診抑制の理由	188
4. 予防接種の接種状況	189
(1) 定期予防接種の接種状況	189
(2) 任意予防接種の接種状況	190
5. まとめ	194
(1) 子どもの健康状態	194
(2) 医療機関での受診状況	194
(3) 予防接種の接種状況	194
第9章 保護者の状況	196
1. 保護者の健康状態	196
(1) 母親の主観的健康状態	196
(2) 母親の抑うつ傾向	198
2. 保護者の育成環境	201
(1) 母親の最終学歴	201
(2) 父親の最終学歴	203
(3) 15歳当時の暮らし向き	205
(4) 成人するまでに体験した困難	206
3. 保護者と子どもの関係	210
(1) 子どもと行う活動	210

(2)子どもへの接し方	216
(3)子どもの将来について	222
(4)子どもに受けさせたい教育レベル	223
4. 保護者の相談相手の有無	225
5. まとめ	227
(1)保護者の健康状態・成育環境	227
(2)保護者の学歴と子どもへの教育期待	227
(3)保護者の子どもへの接し方	228
(4)保護者の相談相手の有無	228
第10章 制度・サービスの利用	229
1. 情報の入手	229
(1)現在の情報入手方法	229
(2)今後の情報入手方法の希望	231
2. 就学援助	233
(1)就学援助費の受給状況	233
(2)実費との差額が大きいもの	234
(3)就学援助を受給していない理由	236
3. 様々な支援サービス	239
(1)支援サービスの利用状況	239
(2)支援サービスの利用意向	246
4. 金銭的支援制度	249
(1)金銭的支援制度の利用状況	249
(2)金銭的支援制度の利用意向	252
5. 公的機関への相談	256
6. まとめ	263
(1)情報の入手	263
(2)就学援助	263
(3)様々な支援サービス	264
(4)金銭的支援制度	264
(5)公的機関への相談	264

【集計方法】

- 本報告書においては、クロス表の掲載の際には、 χ^2 二乗検定によって分布が統計的に有意であるかを検定している。その結果、1%水準で有意である場合は表頭に「***」、5%水準で有意の場合は「**」、10%水準で有意の場合は「*」、有意でない場合は「X」を付している。(例:1%未満で有意であるとは、図表で示している項目の間に統計的に差が無い確率が1%未満であり、差があるといって問題がない、という意味を指す。)
- 世帯タイプは、保護者票の子どもと父親、母親、祖父母それぞれの同居状況から判別している。そのため、各制度や公的統計の定義とは必ずしも一致しない。
- 本文中の各図表の数値については、端数処理の関係上、各項目の割合の合計値が100%とならない場合がある。
- 本報告書は、調査票への回答を統計的に集計処理したものであり、回答者の個人の情報が特定されるものではない。